

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 08139479
PUBLICATION DATE : 31-05-96

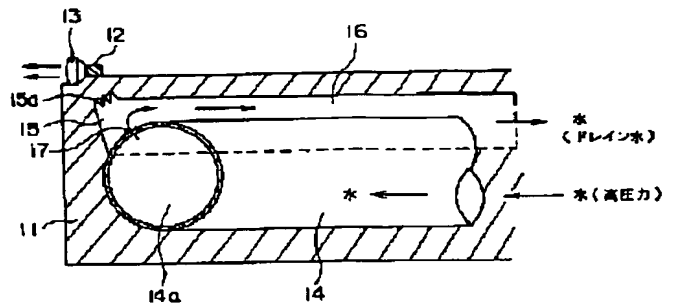
APPLICATION DATE : 08-11-94
APPLICATION NUMBER : 06273570

APPLICANT : NAKAI SADA0;

INVENTOR : SUGA HIROBUMI;

INT.CL. : H05K 7/20 H01L 23/473

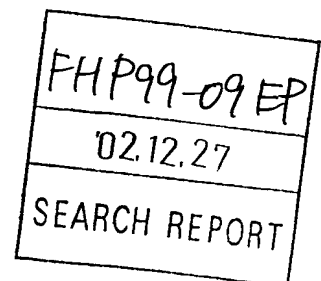
TITLE : HEAT SINK



ABSTRACT : PURPOSE: To provide a high-durability heat sink, which can absorb efficiently heat from a radiator and can be easily manufactured.

CONSTITUTION: A beam emitted from an LD bar 12 placed on a radiator 11 is emitted via a microlens 13. A water channel formed in the interior of the radiator 11 is constituted of a pressing water channel 14, a cooling part 15 and a discharge water channel 16. A puddle part 14a is formed in the end part of the water channel 14. A plurality of small holes 17 are formed in this puddle part 14a along the arrangement direction of the LD bar 12. A roughened surface 15a is formed in an on the cooling part 15 in the vicinity of the LD bar 12. The remaining cavity part of the radiator 11 constitutes the discharge water channel 15. Cooling water jetted through the small holes 17 is sprayed on the part 15 at a high pressure and heat transferred from the LD bar 12 to the cooling part 15 is effectively absorbed in this cooling water.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-139479

(43) 公開日 平成8年(1996)5月31日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

H 0 5 K 7/20

N

P

H 0 1 L 23/473

H 0 1 L 23/ 46

Z

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願平6-273570

(22) 出願日

平成6年(1994)11月8日

(71) 出願人 000236436

浜松ホトニクス株式会社

静岡県浜松市市野町1126番地の1

(71) 出願人 591114799

中井 貞雄

大阪府茨木市北春日丘3-6-45

(72) 発明者 中井 貞雄

大阪府茨木市北春日丘3丁目6番地45

(72) 発明者 山中 正宣

大阪府箕面市石丸3丁目25番地E-205号

(74) 代理人 弁理士 長谷川 芳樹 (外4名)

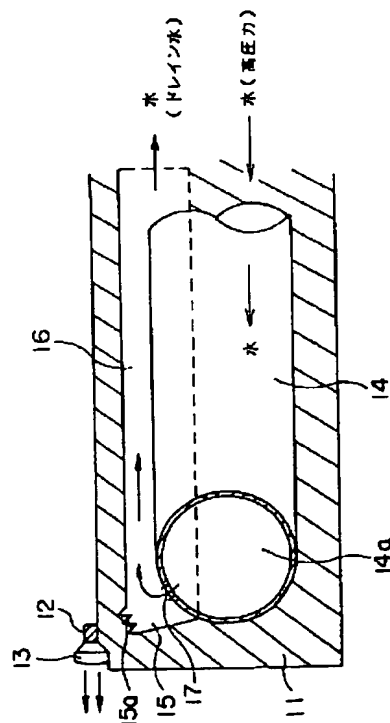
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ヒートシンク

(57) 【要約】

【目的】 発熱体から熱を効率良く奪うことが可能で、容易に製造することができる耐久性の高いヒートシンクを提供する。

【構成】 放熱体11に載置されたLDバー12から出射されたビームはマイクロレンズ13を介して出射される。放熱体11の内部に形成された水路は、加圧水路14と冷却部15と排水路16とから構成されている。加圧水路14の端部には水溜部14aが形成されている。この水溜部14aにはLDバー12の配設方向に沿って複数の小孔17が形成されている。LDバー12の近傍の冷却部15には凹凸面15aが形成されている。放熱体11の残余の空洞部は排水路15を構成している。小孔17から噴射された冷却水は冷却部15に高圧で噴きつけられ、LDバー12から冷却部15に伝わった熱はこの冷却水によって効果的に奪われる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 発熱体に接触させられる放熱体と、この放熱体に形成された水路とを備え、この水路に冷却水を流して前記発熱体を冷却するヒートシンクにおいて、前記水路は、小孔が形成され加圧水が供給される加圧水路と、前記小孔から噴射された冷却水が当てられる前記発熱体の近傍に設けられた冷却部と、この冷却部で用いられた冷却水を排出する排水路とから構成されていることを特徴とするヒートシンク。

【請求項 2】 前記冷却部に凹凸が形成されていることを特徴とする請求項 1 記載のヒートシンク。

【請求項 3】 前記加圧水路に水溜部が形成され、この水溜部に前記小孔が複数形成されていることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 記載のヒートシンク。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は水冷構造を有するヒートシンクに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種のヒートシンクとしては、例えば、図 3 に示す高出力 LD（レーザーダイオード）アレイ用のヒートシンクがある。ここで、同図（a）はこのヒートシンクの断面図、同図（b）は平面図を示している。この LD アレイ用ヒートシンクには、LD 発振波長の動的な変動を抑えることはもちろんのこと、出射されたレーザービームの空間的なばらつきを最小限に抑制する機能を果たすことが必要とされる。このため、このヒートシンクでは LD アレイの放熱を円滑に行うために水冷構造が備えられている。つまり、放熱体 1 には上面水路 2 a と下面水路 2 b との 2 層構造をした水路 2 が設けられている。この水路 2 の注入口 3 から取り込まれた冷却水は上面水路 2 a において広げられる。広げられた冷却水は LD アレイ 4 を一様に冷却し、冷却後、下面水路 2 b を通って排出口 5 に戻される。放熱体 1 はシリコン結晶からなり、上面水路 2 a および下面水路 2 b はこのシリコン（Si）結晶が微細加工されて形成されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記従来のヒートシンクにおいては、上記のように微細加工技術を用いて上面水路 2 a および下面水路 2 b を形成しているため、ヒートシンクの作製工程が複雑になるという問題があった。また、Si は機械的に脆いため、ヒートシンクの耐久性にも問題があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明はこのような課題を解消するためになされたもので、発熱体に接触させられる放熱体と、この放熱体に形成された水路とを備え、この水路に冷却水を流して発熱体を冷却するヒートシンクにおいて、上記水路は、小孔が形成され加圧水が供給

2

される加圧水路と、小孔から噴射された冷却水が当てられる発熱体の近傍に設けられた冷却部と、この冷却部で用いられた冷却水を排出する排水路とから構成されていることを特徴とするものである。

【0005】 また、上記冷却部に凹凸が形成されていることを特徴とするものである。

【0006】 また、上記加圧水路に水溜部が形成され、この水溜部に小孔が複数形成されていることを特徴とするものである。

【0007】

【作用】 小孔から噴射された冷却水は冷却部に高圧で噴きつけられ、発熱体から冷却部に伝わった熱はこの冷却水によって効果的に奪われる。一方、本構造は脆いシリコン結晶を用いなくても構成される。

【0008】 また、冷却部に凹凸が形成されていると、冷却部の表面積は増大し、冷却水との接触面積は増大する。

【0009】 また、加圧水路に水溜部が形成され、この水溜部に複数の小孔が形成されていると、各小孔から噴射される高圧の冷却水は冷却部に同時に噴きつけられる。

【0010】

【実施例】 図 1 は本発明の一実施例によるヒートシンクを示す側面図であり、図 2 はこのヒートシンクの上面図である。

【0011】 放熱体 11 の上面端部には発熱体である LD バー 12 が載置されている。この LD バー 12 は LD が棒状に形成されたものであり、放熱体 11 の端部において図 1 の紙面に垂直な方向に延びている。LD バー 12 から出射されたレーザービームはマイクロレンズ 13 によって集束されて出射される。放熱体 11 の内部には LD バー 12 を冷却するための水路が形成されている。水路は、加圧水路 14 と冷却部 15 と排水路 16 とから構成されている。加圧水路 14 は円筒状の銅製パイプからなり、この加圧水路 14 の端部には直角に太めの銅製パイプが溶接され、水溜部 14 a が形成されている。この水溜部 14 a には、LD バー 12 の配設方向に沿って複数の小孔 17 が形成されている。これら加圧水路 14 および水溜部 14 a は放熱体 11 の内部に形成された空洞部に挿入、固定されて構成されている。この空洞部は、厚さ 1 mm の銅板からなる放熱体 11 の内部が切削されて形成されている。LD バー 12 の下方にある空洞部は冷却部 15 を構成しており、LD バー 12 の近傍の冷却部 15 には凹凸面 15 a が形成されている。この凹凸面 15 a は、各小孔 17 から噴射される冷却水が噴きつけられる位置に形成されている。放熱体 11 の残余の空洞部は排水路 16 を構成している。

【0012】 このような構成において、加圧水路 14 に注入された冷却水は高圧力になり、加圧された冷却水は各小孔 17 から噴射する。噴射した冷却水は凹凸面 15

3

aに噴きつけられ、排水路16に集められて排出される。

【0013】本実施例によるヒートシンクにおいては、小孔17から噴射された冷却水は冷却部15の内壁に高圧で噴きつけられ、L Dバー12から冷却部15に伝わった熱はこの冷却水によって効果的に奪われる。一方、本実施例によるヒートシンクは、耐久性の高い銅板および銅製パイプによって形成され、従来のように脆いシリコン結晶を用いなくとも構成できる。このため、ヒートシンクの作製工程に微細で複雑な従来の加工工程が必要とされなくなり、比較的容易に耐久性の高いヒートシンクを製造することが可能となる。

【0014】また、冷却水が噴きつけられる冷却部15の内壁に凹凸面15aが形成されているため、冷却部15の表面積は増大する。よって、冷却部15と冷却水との接触面積が増大するため、L Dバー12から冷却部15に伝えられた熱はより効率的に冷却水に奪われ、ヒートシンクの熱交換の効率は向上する。

【0015】また、加圧水路14に水溜部14aが形成され、この水溜部14aに複数の小孔17が形成されているため、各小孔17から噴射される高圧の冷却水は冷却部15に同時に噴きつけられる。このため、棒状に長く形成されたL Dバー12であっても、多量の冷却水によって全体的に効率良く冷却される。

【0016】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、小

4

孔から噴射された冷却水は冷却部に高圧で噴きつけられ、発熱体から冷却部に伝わった熱はこの冷却水によって効果的に奪われる。一方、本構造は脆いシリコン結晶を用いなくとも構成できる。このため、ヒートシンクの作製工程に微細で複雑な加工工程が必要とされなくなり、比較的容易に耐久性の高いヒートシンクを製造することが可能となる。

【0017】また、冷却部に凹凸が形成されていると、冷却部の表面積は増大し、冷却水との接触面積は増大する。このため、発熱体から冷却部に伝えられた熱はより効率的に冷却水に奪われ、ヒートシンクの熱交換の効率は向上する。

【0018】また、加圧水路に水溜部が形成され、この水溜部に複数の小孔が形成されていると、各小孔から噴射される高圧の冷却水は冷却部に同時に噴きつけられる。このため、発熱体は全体的に効率良く冷却される。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例によるヒートシンクを示す側面図である。

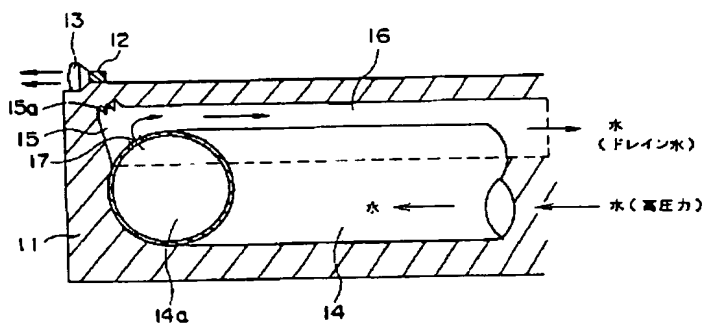
【図2】本実施例によるヒートシンクを示す上面図である。

【図3】従来のヒートシンクを示す図である。

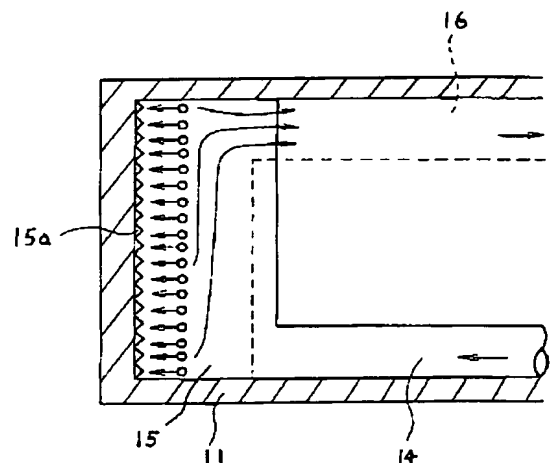
【符号の説明】

11…放熱体、12…L Dバー、13…マイクロレンズ、14…加圧水路、14a…水溜部、15…冷却部、15a…凹凸面、16…排水路、17…小孔。

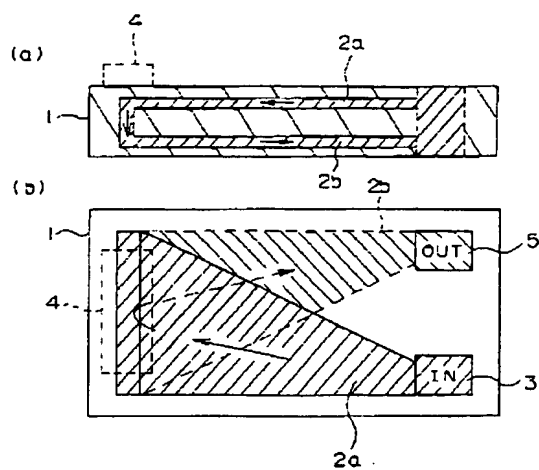
【図1】



【図2】



【図3】



フロントページの続き

(72)発明者 宮島 博文
 静岡県浜松市市野町1126番地の1 浜松ホ
 トニクス株式会社内

(72)発明者 神崎 武司
 静岡県浜松市市野町1126番地の1 浜松ホ
 トニクス株式会社内

(72)発明者 菅 博文
 静岡県浜松市市野町1126番地の1 浜松ホ
 トニクス株式会社内